



ミニガイド No. 16

おお さか

大阪のテントウムシ

A Guide to Ladybirds of Osaka

大阪市立自然史博物館

おおさかしぜんしはくぶつかん

Osaka Museum of Natural History

— 目 次 —

絵ときけんさく	i~viii	20. シロトホシテントウ	20
1. アミダテントウ	1	21. シロジュウシホシテントウ	21
2. ヨツボシテントウ	2	22. ムーアシロホシテントウ	22
3. アカホシテントウ	3	23. シロジュウゴホシテントウ	23
4. ミカドテントウ	4	24. ジュウロクホシテントウ	24
5. ヒメアカホシテントウ	5	25. ウンモンテントウ	25
6. ミスジキイロテントウ	6	26. クロスジチャイロテントウ	26
7. ベニヘリテントウ	7	27. ムナグロチャイロテントウ	27
8. アカヘリテントウ	8	28. ナミテントウ	28
9. アカイロテントウ	9	29. クリサキテントウ	29
10. ベダリアテントウ	10	30. ダンダラテントウ	30
11. ジュウサンホシテントウ	11	31. ハラグロオオテントウ	31
12. ジュウクホシテントウ	12	32. カメノコテントウ	32
13. フタモンテントウ	13	33. キイロテントウ	33
14. アイヌテントウ	14	34. シロホシテントウ	34
15. ナナホシテントウ	15	35. クモガタテントウ	35
16. マクガタテントウ	16	36. ニジュウヤホシテントウ	36
17. ウスキホシテントウ	17	37. オオニジュウヤホシテントウ	37
18. ムツキボシテントウ	18	38. ヤマトアザミテントウ	38
19. ヒメカメノコテントウ	19	39. トホシテントウ	39

はじめに

テントウムシは赤や黄色のもようがある、かわいらしい虫です。虫なんか見るのも嫌いという人でも、テントウムシは好き、という人も少なくないでしょう。

テントウムシは分類上は昆虫（綱）の中で、鞘翅（甲虫）目、テントウムシ科というところに属しています。日本だけでもおよそ160種も知られていて、甲虫の中でも比較的種類の多いなかまといえます。

本書では大阪府など近畿中部に分布する3mm以上のテントウムシだけを扱っています。3mm以下の小さな種類の場合は、背中の模様では区別できなかったり、交尾器などを観察する必要があることも多く、かなり専門的な知識が必要となるので、扱うことができませんでした。これらを除いても合計39種にものぼりましたので、ミニガイドとしては十分なテーマだったと思っています。

今回、このような形でいったんまとめましたが、テントウムシの分布や生態など、わからないことはまだまだたくさんあります。このガイドをきっかけにたくさんの方がテントウムシに興味をもち、生態などいろいろなことが分かるようになったら、と願っています。

本書をまとめるにあたり、たいへん多くの方々から分布情報提供、標本寄贈、文献紹介、行事の手伝いなどでお世話になりました。記して御礼申し上げます。（敬称略：（補）は自然史博物館・友の会の行事ボランティア「補助スタッフ」としてテントウムシの行事に参加したメンバー）

有田隆一（補）、東浩司、石井陽子、池田亮（補）、市川顕彦、岩田隆太郎、浦野信孝（補）、榎阪昭則（補）、大西弥生（補）、奥野晴三、片山めぐみ（補）、桂孝次郎、金沢至、狩野登之助（補）、河上康子（補）、桑原英夫（補）、斉藤卓治（補）、斎藤琢巳、佐久間大輔、桜谷保之、佐々治寛之、谷壽一、寺島久雄（補）、樽野博幸、竹中冬翔、富永修、中川護、西尾伸一（補）、西村静代（補）、西村裕安（補）、西本雄一郎、浜畑徹（補）、弘岡和子、弘岡知樹、弘岡拓人、藤井伸二、藤田俊児（補）、細井孝昭（補）、松村憲一（補）、道盛正樹、三輪陽一、宮武睦夫、宮武頼夫、六車恭子（補）、六車文明、山本博子（補）、山内周輔、和田岳、愛媛大学農学部昆虫学研究室。

本書のまとめ方

本書は大阪府に記録のある（あるいは記録される可能性のある）3 mm以上のテントウムシ、39種を扱っています。分布記録は博物館の標本や文献による記録、またいろいろな方の個人コレクションをデータを加えさせていただいていることもあります。細かいデータについては別途報告したいと思っています。

生態についてはいろいろな書物から引用させていただいている場合がほとんどです。

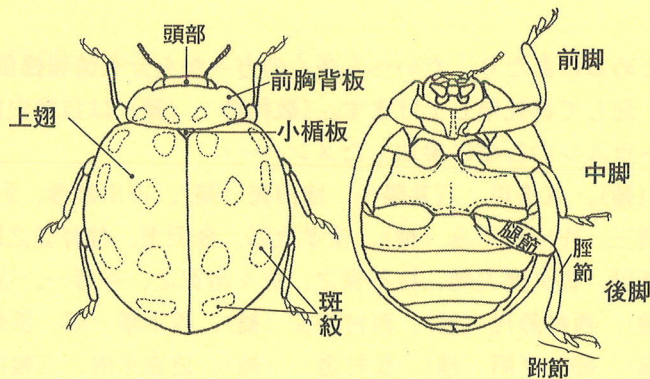
本書のつかい方

種類を調べるためには、斑紋ではっきりした種類も多いので、カラーページのイラストと手元の標本を比べるだけでわかることも多いと思います。種名と種類番号から本文の説明を読んで確認してください。

ちょっとややこしいかな、というときは、ぜひ絵とき検索（i～viiiページ）をはじめから使って調べてください。

いずれの場合も、それぞれの種類の解説のもっとも下の欄に、種類を見分けるときに似ている種名をあげておきますので、最終的にはそれで必ず確認をするようにしてください。

テントウムシのからだの部分の呼び方



テントウムシの絵ときけんさく

まず あなたのしらべようとしている虫は本当にテントウムシですか？

テントウムシに似ていて、**テントウムシではない**おもな仲間



ヨツボシテントウダマシ
Ancylopus pictus asiaticus

4.5 - 5 mm. 草原の地面などに見られる。



キシボマルウンカ
Ishiharanus iguchii

5 mm. 山地で見られ、ナガバヤブマオにつく。



ヒメマルカメムシ
Coptosoma biguttata

3 - 5 mm. ハギ類などのマメ科植物を食草とする。



イタドリハムシ
Gallerucida bifasciata

7.5 mm. 触角が長い。
イタドリ、オオイタドリなどの葉を食べる。



テントウノミハムシ
Agropistes biplagiatus

3 - 3.5 mm. 触角が長い。ヤチダモ、ヒイラギなどの葉を食べる。近縁種にヒメテントウノミハムシ（イボタなど）。



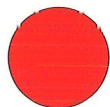
クロホシテントウ
ゴミムシダマシ
Derisptia maculipennis

3 mm. 触角の先が丸くならない。
倒木や石の上で見られる。

どれにもあてはまらない場合はいよいよテントウムシ科の検索へ

大阪府のテントウムシ科の見分け方

①大きさは？



1cm以上

(次の2種)



3mm



10mm (1cm)



(37種)



3mm以下

たくさんの種類がありますが、

本書では
扱いません

②



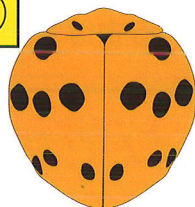
③



④



②



31.ハラグロオオテントウ



32.カメノコテントウ

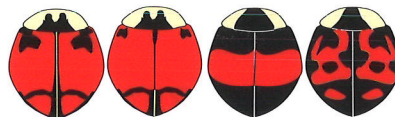
③変わったもようをしている



19.ヒメカメノコテントウ



1.アミダテントウ



28.ナミテントウ

以上のようなもようではない④へ

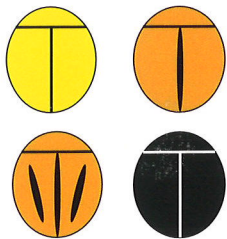
④星がある？

上翅に星がある



⑤へ

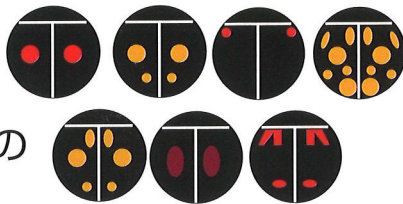
上翅に星が
まったくない
(無地, スジなど)



⑨へ

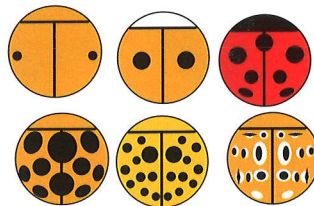
⑤上翅に星のあるテントウムシ

黒地に
赤やオレンジ
の星があるもの



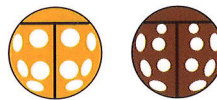
⑥へ

赤やオレンジ色,
黄土色の地に
黒の星があるもの
(黒星に白の輪状紋を
ふくむ)



⑦へ

茶色の地に
白の星があるもの



⑧へ

白地に黒や茶色の
星がたくさん
(およそ3mmで小さい)



⑥黒地に赤やオレンジの星があるもの

2星



30.ダングラ
テントウ



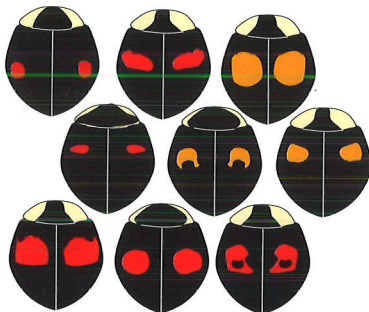
5.ヒメアカホシ
テントウ



3.アカホシ
テントウ



19.ヒメカメノコ
テントウ



28.ナミテントウ
(二紋型)

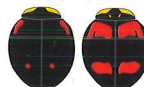
4星



16.マクガタ
テントウ



28.ナミテントウ



30.ダングラ
テントウ

3星



28.ナミテントウ

6星



17.ウスキホシ
テントウ



18.ムツキボシ
テントウ



28.ナミテントウ

それ以上



28.ナミテントウ
(まだら型)



21.シロジュウシホシ
テントウ

⑦赤， オレンジ， 褐色の地に黒の星があるもの

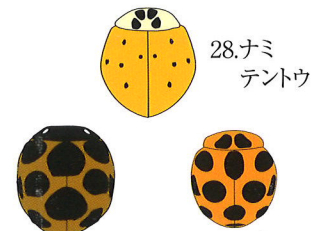
2星



7星



10星



17星



18星



11星



12星



19星



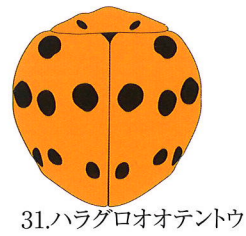
4星



13星



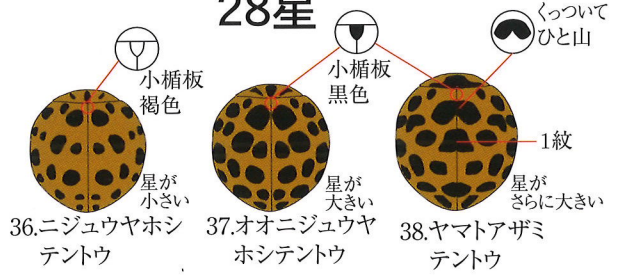
14星



6星

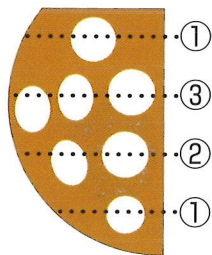


28星



⑧白星のテントウムシの見分け方

上翅（片側だけ）の
星の並び方を見て
下のように
数をかぞえてみる



②-②-②-①

②-②-①



20.シロトホシ
テントウ

①-③-②-①



24.ジュウロクホシ
テントウ



紋列まっすぐ

21.シロジュウシホシ
テントウ

①-②-②-①



中央に褐色紋

34.シロホシテントウ



紋列まっすぐ

23.シロジュウゴ
ホシテントウ



4点



4点

紋列まがる

22.ムーアシロホシ
テントウ

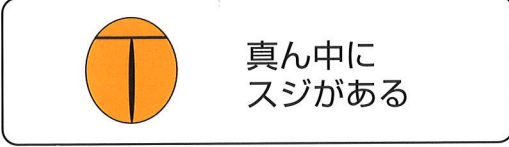
⑨ 上翅に星のないテントウムシ



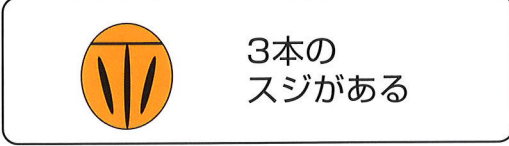
真っ黒



全体が黄色、
オレンジないし赤色



真ん中に
スジがある

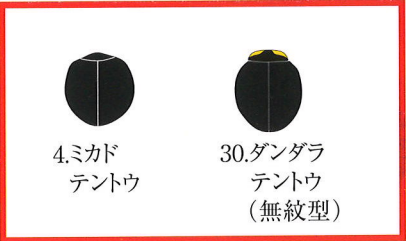


3本の
スジがある

その他
のもよう

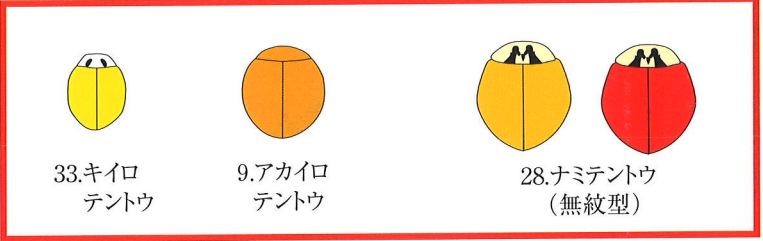


⑩へ



4.ミカド
テントウ

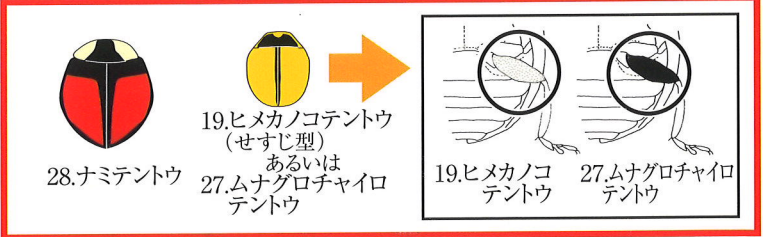
30.ダングラ
テントウ
(無紋型)



33.キイロ
テントウ

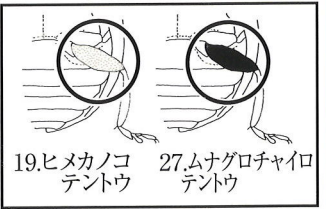
9.アカイロ
テントウ

28.ナミテントウ
(無紋型)



28.ナミテントウ

19.ヒメカノコテントウ
(せすじ型)
あるいは
27.ムナグロチャイロ
テントウ



19.ヒメカノコ
テントウ

27.ムナグロチャイロ
テントウ



6.ミスジキイロ
テントウ

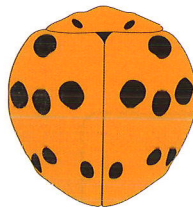
26.クロスジ
チャイロテントウ



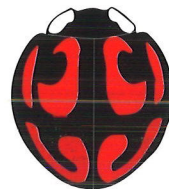
8.アカハリテントウ



7.ベニハリテントウ



31.ハラグロオオテントウ



32.カメノコテントウ



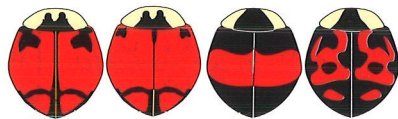
28.ナミテントウ



19.ヒメカノコテントウ



1.アミダテントウ



28.ナミテントウ



16.マクガタテントウ

1. アミダテントウ

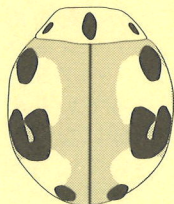
阿弥陀瓢虫

Amida tricolor

(三色の)

分 布

本州、四国、九州、台湾、インドシナ



4.0-4.6 mm

黄色と赤のとてもカラフルなテントウムシです。大阪府ではこれまであまり産地は知られていなかったのですが、1997~98年の調査で、個体数は多くないものの各地に分布することがわかりました。

京都・八幡市の男山では特異的にたくさん見られ、冬には丸まったアオキの葉など中などで越冬しているのが観察できます。

照葉樹林に多く見られることから、カシ類を寄主植物としているアオバハゴロモなどを食べていると考えられていますが、谷ら(1997)がNature Studyで報告したナガバヤブマオの葉を食べているという観察例は注目に値します。

いずれにせよ、近縁種のいない1属1種なので、生態面のなぞと斑紋の様子の美しさもあり、注目すべきテントウムシといえます。

■**生息環境** 照葉樹林に局所的に発見される。

■**生態** 半翅類(キジラミ類やアオバハゴロモ)を食べる。ナガバヤブマオの葉を摂食(谷1997)。

■大阪付近での採集記録

[比撰] 豊能町新光風台の上、豊能町初谷、箕面勝尾寺、茨木市佐保 [金剛山地] 大和葛城山登山口付近 [和泉山脈] 天見、河合寺、紀見峠 [府外] 八幡市男山、奈良壺坂山、京都嵐山、京都右京区愛宕山、京都西京区善峰寺ふきん、奈良春日山、奈良県長谷

■似ている種類と区別点

斑紋はきわめて特徴的で、似ている種類はありません。

■発生消長(採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■

8	9	10	11
■	■	■	■

2. ヨツボシテントウ

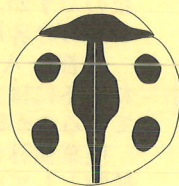
四星瓢虫

Phymatosternus lewisii

(ルイス氏の)

分布

本州、四国、九州、対馬、朝鮮半島、
中国、台湾、インド、ビルマ



2.9-3.7 mm

名前の通り、4つの星のあるテントウムシです。郊外へ出ると比較的普通に見られる種類なのですが、都市部ではほとんど見られず、しばしばベダリアテントウ(10.)と混同されています。

ベダリアテントウのほうは上の紋がななめ下になっているのに対し、このヨツボシテントウは丸い模様になっているので、野外行事や講演などでは「泣いている顔のベダリアテントウ、笑っている顔のヨツボシテントウ」という具合に見分け方の説明をしています。

■生息環境 山ぞいから山地。

■生態 アブラムシ食?

■大阪付近での採集記録

[北摂] 初谷、川西市見野、山下、吉川下之町、笹部、青貝山、高代寺道、東ときわ台、猪名川町大谷、猪名川町槻並、内馬場、川西市芋生、豊中市島熊山、能勢町天王、下止々呂見、摂津峡 [生駒山地] 鳴川峠、枚岡神社 [河内] 河合寺、長野公園 [和泉山脈] 岩湧、和泉葛城山頂、貝塚市大川・馬場、[府外] 奈良公園、京都・保津駅前

■似ている種類と区別点

ベダリアテントウ(10.)とよく似ていますが、背中の模様が丸いことで区別できます。



10.ベダリアテントウ

■発生消長(採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■
8	9	10	11
■	■	■	■

3. アカホシテントウ

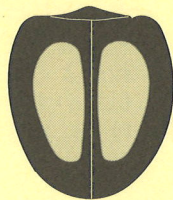
赤星瓢虫

Chilocorus rubidus

(赤っぽい)

分布

北海道、本州、四国、九州、シベリア、朝鮮半島、中国、ネパール、セレベス、豪州



5.8-7.2 mm

ルビーのようなぼんやりとした赤いもようが特徴の、やや大型のテントウムシです。大きな公園などでしばしば見られ、1998年には長居公園でもサクラの葉裏についているのが見つかりました。

郊外では時にたくさん見つかることがあります。博物館の樽野博幸学芸員の自宅（堺市）でもウメの枝におびただしい数がサナギになっているのが観察され、その脱殻を枝ごと昆虫研究室に寄贈していただきました。

■**生息環境** おもに山ぞいや丘陵地。平地には少ない。

■**生態** タマカイガラムシ食。クスギ、クリなどにつくカイガラムシ食。

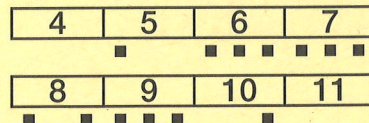
大阪付近での採集記録

[北摂] 川西市（笹部）、能勢町（初谷）、猪名川町（槻並）、高槻市（萩谷、殿町）、豊中高熊山、高槻女瀬川 [大阪市内] 長居公園、靱公園、東住吉区今林 [泉州] 堺市大仙公園、堺市西野、仁徳天皇陵、大泉緑地 [河内] 藤井寺市道明寺中学校校庭、富田林市錦織公園、私市、河内長野市荘園町、天見 [六甲山地] 西宮市船坂谷 [和泉山脈] 岬町平井峠、犬鳴山 [府外] 香芝市志津美駅、六甲山・紅葉谷、平城京

似ている種類と区別点

ぼんやりした赤いもようは他に似ている種類はありません。

発生消長（採集記録より）



4. ミカドテントウ

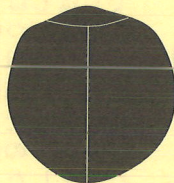
帝瓢虫

Chilocorus mikado

(皇帝 (みかど))

分 布

本州、九州



3.9-4.1 mm

イチイガシに特異的につくテントウムシで、奈良県や和歌山県から記録されているようですが、大阪府下からはまだ見つかっていません。産地は近畿各地でも今後たくさん見つかる可能性があります。比較的よく見られるヒメアカホシテントウ (次種) に似ていますが、赤いもよう欠いていますので、見分け方は容易いでしょう。

■生息環境

■生態 イチイガシに特異的につく。

■大阪付近での採集記録

〔附外〕 奈良春日山、奈良公園、奈良県長谷、和歌山県大塔村、和歌山県日置

■似ている種類と区別点

次のヒメアカホシテントウ (5.) によく似ていますが、紋がないことで区別できます。

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	
8	9	10	11

5. ヒメアカホシテントウ

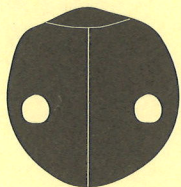
姫赤星瓢虫

Chilocorus kuwanae

(桑名氏の)

分布

北海道、本州、四国、九州、対馬、
樺太、朝鮮、中国



3.3-4.9 mm

黒地に赤の2つのもようがかわいらしいテントウ
ムシで、都市部をはじめ各地にふつうにみられます。

■**生息環境** 都市部を含む平地から山地まで。ふつう。

■**生態** クワカイガラムシ、クワシロカイガラムシなど捕食。

■大阪付近での採集記録

[北摂] 能勢町(初谷、青貝山、天王)、豊能町(初谷)、豊中市島熊山、川西市(大和、笹部)、猪名川町(槻並、大谷、杉生新田)、剣尾山、摂津峡、千里山 [大阪市内] 鞆公園、天王寺公園、城北公園 [泉州] 堺市ニサンザイ古墳、堺市73区、仁徳天皇陵、浜寺、高石市高砂、水間、北信太、三国、高師浜、岸和田市極楽町 [河内] 錦織公園、河内長野市清水から惣城、長野公園 [生駒山地] 枚岡公園 [金剛山地] 二上山、竹内峠から平石峠、クロトガ谷 [和泉山脈] 貝塚市大川・馬場、岩湧山、天見 [六甲山地] 六甲、西宮(山口、船坂谷、金仙寺、下田) [淀川・琵琶湖] 三川合流点 [府外] 香芝市上中、奈良県洞川、長谷、友が島

■似ている種類と区別点

ナミテントウ(二紋型:28.)やダンダラテントウ(30.)とはやや小型で平べったいことと、前胸背板が全体的に真っ黒なことで区別できます。



28.ナミテントウ



30.ダンダラテントウ

■発生消長(採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■
8	9	10	11
■	■	■	■

6. ミスジキイロテントウ

三筋黄色瓢虫

Brumoides ohtai

(太田氏の)

分布

本州、沖縄、台湾



2.7-3.4 mm

一見フタスジヒメハムシなどのハムシ類を思わせる風貌です。

沖縄県沖縄市で1985年に大発生し、翌1986年に大阪市大正区で市川顕彦氏により初めて発見され報告されています。芝生での様子を観察したところ、小さなゴミムシ類のようにすばやく歩きながら、芝生の中にもぐりこんでいました。

■生息環境 都市部、平野。帰化種。

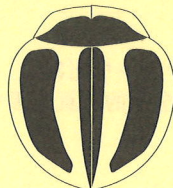
■生態 芝生の上でよく見られるという。

■大阪付近での採集記録

[大阪市内] 朝公園、大正区、南港 [泉州] 信太山、貝塚市二色の浜、泉大津市助松埠頭 [淀川・琵琶湖] 枚方磯島 [府外] 奈良・平城京跡

■似ている種類と区別点

クロスジチャイロテントウ (26.) と三本のすじが一見似ていますが、大きさや形などから区別することができます。



26. クロスジチャイロテントウ

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
---	---	---	---

		■ ■	■
--	--	-----	---

8	9	10	11
---	---	----	----

■ ■		■ ■ ■	
-----	--	-------	--

7. ベニヘリテントウ

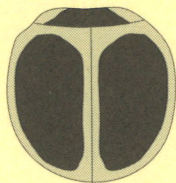
紅縁瓢虫

Rodolia limbata

(ふちどりのある)

— 分 布 —

本州、四国、九州、対馬、五島列島、
シベリア、朝鮮半島、中国



3.9-5.4 mm

毛が生えていて光沢のない仲間ですが、両翅の縁のみならず、会合部が赤いことで次のアカヘリテントウと明瞭に区別できます。

比較的ふつうに見られる種類で、成虫の発生は年中見られます。長居公園ではオオワラジカイガラムシのたくさん現れる春に大量発生が見られました

■ **生息環境** 平地から山ぞい、山地まで。わりとふつう。

■ **生態** カイガラムシ食（ブナ科につくオオワラジカイガラムシ）。5月ごろ葉裏で蛹化。

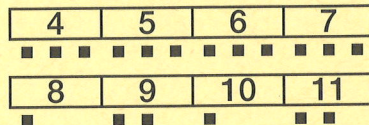
■大阪付近での採集記録

[北摂] 箕面高山、初谷、三草山、青貝山、豊中・島熊山、川西市黒川、笹部、高代寺道、猪名川町大谷、箕面市西之所、川西市学生、能勢町下田尻、箕面、三草山、摂津峡、瑠璃溪 [大阪市内] 長居公園 [河内] 八尾市恩智 [泉州] 仁徳陵、高石市高砂 [金剛山地] 大和葛城山、水越峠、金剛山 [和泉山脈] 天見から岩湧山、岬町上孝子、河内長野市烏帽子形公園 [六甲山地] 甲山 [府外] 八幡市男山、京都嵐山、春日山、高野山不動坂、京都芹生、友が島

■似ている種類と区別点

アカヘリテントウ (8.) とはもようでも容易に区別できます。

■発生消長（採集記録より）



8. アカヘリテントウ

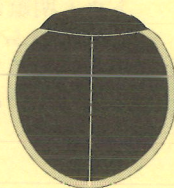
赤縁瓢虫

Rodolia rufocincta

(赤帯の)

分布

本州、四国、九州



4.0-5.6 mm

ベニヘリテントウと同じく、毛が生えていて光沢のない仲間です。翅の外縁だけに赤いふちどりのあるのが特徴です。

近畿での産地の記録は少なく、かなり珍しい種類のようなので。愛媛大学農学部昆虫学教室に収蔵されている標本からデータをいくつか加えさせていただきましたが、いずれも戦前のものでした。筆者も高槻市二料で一度採集したことがあるだけです。

■生息環境 山間部。少ない。

■生態

■大阪付近での採集記録

[比撰] 初谷、猪名川町木間生、宝塚、高槻二料、豊中市島熊山 [生駒] 香芝市北今市 [和泉山脈] 岩湧山 [六甲山] 摩耶山

■似ている種類と区別点

ベニヘリテントウ (7.) とはもようで区別できます。

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■
8	9	10	11

9. アカイロテントウ

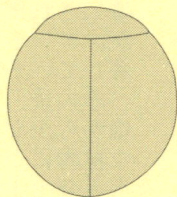
赤色瓢虫

Rodolia concolor

(単色の)

分 布

本州、四国、九州、対馬



3.5-5.7 mm

毛が生えて光沢がないのはベニヘリテントウ、アカヘリテントウとおなじですが、全体的にオレンジ色になっています。

平地から山地まで分布しており、大阪市内でも都市公園など、各地で記録があります。図鑑には「ふつう」と記されているのですが、筆者はあまり見ることのないテントウムシだと思っています。

■**生息環境** 平地から山ぞいまで。図鑑には「ふつう」とある。

■**生態** カイガラムシ類を捕食。

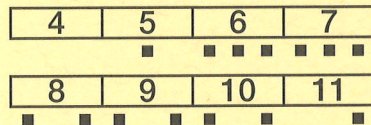
■大阪付近での採集記録

[比撰] 初谷、青貝山、笹部、猪名川町内馬場、高代寺山 [大阪市内] 本町、天王寺公園、靱公園、千島公園 [泉州] 高石市高砂 [金剛山地] 二上山麓畑、金剛山屏風坂 [六甲山地] アイスロード、西宮金仙寺 [府外] 春日山、奈良県洞川、友が島

■似ている種類と区別点

ナミテントウ (28. : 無紋型) やキイロテントウ (33.) とは全体的に光沢がないことと、前胸背板にもようがないことで区別できます。

■発生消長 (採集記録より)



10. ベダリアテントウ

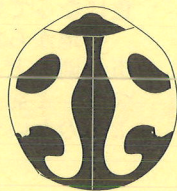
Bedalia瓢虫

Rodolia cardinalis

(重要な)

分布

本州、四国、九州、対馬、沖縄、台湾、中国、オーストラリア、欧州、北米



3.3-3.8 mm

柑橘類を害するオーストラリア原産のイセリアカイガラムシを駆除する目的で、オーストラリアから導入されました。駆除には大きな効果がありましたが、テントウムシそのものも日本に帰化種として定着しています。

その後、イセリアカイガラムシそのものはミカン畑から少なくなってしまったようですが、多種多様な植物につくことができるため、街中の都市公園でも大発生することがあり、それらを追い求めて、このベダリアテントウも都市公園で見つかることがあります。

なお、ベダリア (*Bedalia*) とは本種がかつて属していた属 (genus) 名ですが、後に *Rodolia* 属に移されています。

■生息環境 柑橘類の果樹園?、都市公園。

■生態 イセリアカイガラムシ(柑橘類の害虫)。

■大阪付近での採集記録

[比撰] 箕面、笹部、高槻市土室 [大阪市内] 中之島、靱公園、長居公園、夕陽丘 [附外] 春日山

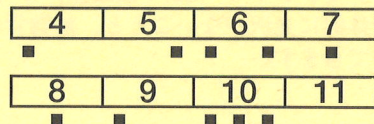
■似ている種類と区別点

ヨツボシテントウ (2.) とはもよりの形で区別できます。



2.ヨツボシテントウ

■発生消長 (採集記録より)



11. ジュウサンホシテントウ

十三星瓢虫

Hippodamia tredecimpunctata

(13星の)

分布

北海道、本州、四国、九州、シベリア、朝鮮半島、中国、モンゴル、中央アジア、欧州、北米



5.6-6.2 mm

形が丸くないので、あまりテントウムシらしく見えません。海岸、河口、湖や池の岸など、ヨシの生えたところに局地的に見られるテントウムシです。

やや小型のジュウクホシテントウ（次種）と同じような環境に生息していますが、本種のほうがやや少ないようです。

■生息環境 ヨシ原。少ない。

■生態 モモコフキアブラムシ（ススキ、モモ）を食べる。イネマダラヨコバイ（靱公園での観察）（桂ほか1993）。

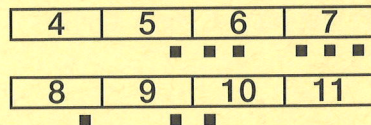
■大阪付近での採集記録

[大阪市内] 靱公園 [泉州] 堺市大津池、信太山・大谷池、男里川河口 [淀川・琵琶湖] 淀川大橋、西中島、高槻市上牧、琵琶湖（西の湖、新旭）

■似ている種類と区別点

ジュウクホシテントウ（12.）とは大きさと翅の星の数で区別することができます。

■発生消長（採集記録より）



12. ジュウクホシテントウ

十九星瓢虫

Anisosticta kobensis

(神戸の)

分布

北海道、本州、四国、九州、ウスリ
一、朝鮮半島、中国



3.8-4.1 mm

ジュウサンホシテントウ（前種）と同様、たて長のテントウムシですが、やや小型で翅のホシも細かく、数も多くなっています。生息環境もジュウサンホシテントウと同様ですが、琵琶湖岸などではこちらの種類の方が多く見られました。

■生息環境 ヨシ原でよく見られる。

■生態 モモコフキアブラムシ（ススキ、モモ）を食べる。

■大阪付近での採集記録

[北摂] 妙見、宝塚 [泉州] 岸和田たな池 [河内] 四条畷 [淀川・琵琶湖] 高槻市上牧、新淀川大橋、西中島、琵琶湖（天津市下阪本、草津市南山田、早崎内湖、西の湖、新旭）

■似ている種類と区別点

前のジュウサンホシテントウ（11.）とは大きさと翅の星の数で区別することができます。

■発生消長（採集記録より）

4	5	6	7
---	---	---	---

■ ■ ■ ■ ■ ■

8	9	10	11
---	---	----	----

■

13. フタモンテントウ

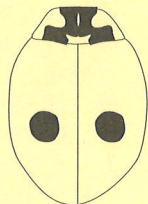
二紋瓢虫

Adalia bipunctata

(2星の)

分布

欧州、北米、本州 (大阪)



4.0-5.5 mm

ヨーロッパではナナホシテントウと並んで普通の種類として知られているテントウムシです。もともと日本には分布していませんでしたが、1994年に近畿大学の桜谷保之氏らによって大阪南港で繁殖しているのが見つかりました。ナミテントウなどと同様にいろいろな斑紋多型が見られます。

■生息環境 港湾部。帰化種。

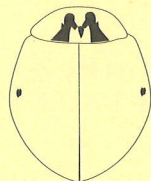
■生態

■大阪付近での採集記録

[大阪市内] 大阪南港

■似ている種類と区別点

ナミテントウ (28.紅型) とは翅の模様の大きさと位置が異なるので、簡単に区別ができます。



28.ナミテントウ (紅型)

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
		■	
8	9	10	11

14. アイヌテントウ

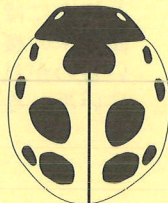
「アイヌ瓢虫」(アイヌ民族から)

Coccinella ainu

(アイヌの)

分布

北海道、本州、シベリア東部、朝鮮
半島、中国



4.3-5.6 mm

ナナホシテントウと同じなかまですが、翅の 모양が4つ多い「11星」になっています。自然史博物館には大阪府下の標本として唯一、金剛山・水越峠のものがあります(中川コレクション)。

分布としては明らかに北の種類ですが、奈良県堂原(黒滝村?) (Sasaji, 1971) や和歌山県清水町(的場1988) で記録されていることから、大阪府にもっと産地があってもよいのかもしれない。

見つかっているところはいずれもさほどの標高はなく、せいぜい400から500m程度です。

■生息環境 山地。近畿ではまれ。

■生態 アブラムシ類を捕食。

■大阪付近での採集記録

[金剛山地] 金剛山水越峠 [府外] 奈良県堂原(黒滝村?)、和歌山県清水町近井

■似ている種類と区別点

ナナホシテントウ(15.)とは星が4つ多い11個になっていることで簡単に区別ができます。大きさもやや小さいようです

■発生消長(採集記録より)

4	5	6	7
---	---	---	---

■

8	9	10	11
---	---	----	----

■

■

15. ナナホシテントウ

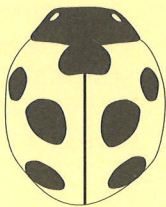
七星瓢虫

Coccinella septempunctata

(7星の)

分 布

北海道、本州、四国、九州、琉球、
千島、台湾、欧亜大陸、アフリカ北
部、北アメリカ



5.0-8.6 mm

日本はもちろん、シベリア、中央アジア、ヨーロ
ッパなどでも最もおなじみのテントウムシです。ア
ブラムシの駆除の目的で北アメリカにも導入されて
おり、現在では在来の近縁種を駆逐しながら分布を
拡大しているようです。

日本の北海道から九州のものは大陸のものとは比
べて黒の星がやや大きく、最初は別種として記載され
たそうです。南西諸島のものは大陸と同様、小さな
斑紋になっています。

■生息環境 平地、山ぞい、山地、河川敷にふつう。

■生態 アブラムシ食。冬でも活動する。ススキの根元などで夏眠する。

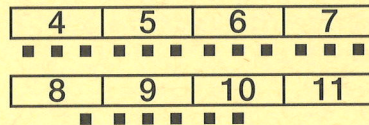
■大阪付近での採集記録

[北摂] 能勢町(宿野、杉原、天王、豆粕)、猪名川町(上阿古谷、上原、杉生新田、槻並、内馬場)、川西市(見野、笹部、西畦野、芋生、東畦野一の鳥居)、豊能町(青
貝山付近、妙見口駅前)、豊中市島熊山、箕面、下止々呂美、摂津峡、高槻市奈佐原、甲子園 [大阪市内] 靱公園、長居公園、東住吉区大和川河原、西淀川区矢倉海岸
[泉州] 高石市高砂、大泉緑地、信太山 [生駒] 八代竜王神感寺、尊延寺 [河内] 河内長野市清水 [金剛山地] 二上山、金剛山頂 [和泉山脈] 貝塚市大川・馬場 岩湧
山、牛滝、天見、岬町下孝子、岬町中孝子 [淀川・琵琶湖] 三川合流、城北公園、高槻市鶴殿、高槻市上牧、枚方市磯島

■似ている種類と区別点

アイヌテントウ(14.)とは星が七つであることで区別で
きます。北日本には九つあるココノホシテントウという種類もい
ます。

■発生消長(採集記録より)



16. マクガタテントウ

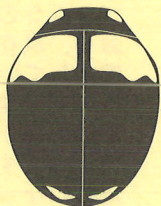
幕形瓢虫

Coccinula crotchii

(クロッチ氏の)

分 布

北海道、本州



3.0-3.8 mm

やや小型の細長いテントウムシで、ダングラテントウやナミテントウなどと間違えなければ、見分け方は簡単です。

この種類はアブラムシ食といわれていますが、なぜ河川敷で特異的に見られるのかが不思議です。何か河川敷特有の植物につくアブラムシを特異的に食べる習性があるのかもしれません。

■生息環境 河川敷。やや少ない。

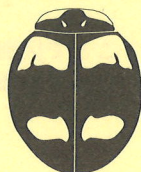
■生態 アブラムシ食。

■大阪付近での採集記録

[北摂] 箕面 [淀川・琵琶湖] 淀川、枚方市磯島、琵琶湖中主町佐波江 [河内] 長野駅前・石川、富田林市河南橋・石川 [府外] 橋本市学文路・紀ノ川、京都府精華町祝園・木津川、甲子園浜 (死かゝい)、六甲、甲東園

■似ている種類と区別点

ダングラテントウ (30.) やナミテントウ (28.) と一見似ているかもしれませんが、大きさや形と、模様で明瞭に区別ができます。



30.ダングラテントウ

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
---	---	---	---

		■	■ ■
--	--	---	-----

8	9	10	11
---	---	----	----

■	■ ■ ■		
---	-------	--	--

17. ウスキホシテントウ

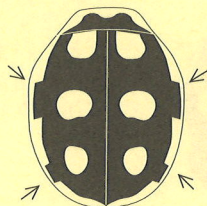
薄黄星瓢虫

Oenopia hirayamai

(平山氏の)

分布

北海道、本州、四国、九州



3.3-4.0 mm

一見、普通種のヒメカメノコテントウに似ていますが、6つの黄色い斑紋が決め手です。もっともよく似ているのがムツキボシテントウです。色彩ともよをていねいに見比べて下さい。

各地に採集報告がありますが、いずれも個体数はあまり多くないと思います。

■生息環境 山ぞいと山地。やや少ない。

■生態

■大阪付近での採集記録

[北摂] 川西市笹部、豊能町初谷 [生駒] 枚岡公園、近鉄南生駒駅前 [泉州] 堺市浜寺、高師浜浄水場 [河内] 富田林・錦織公園、[六甲山地] 六甲山 [府外] 甲子園浜、桜井市多武峰飯盛塚、奈良市にかざ町、氷ノ山、比良山

■似ている種類と区別点

次のムツキボシテントウ(18.)とはやや色合いが薄いことと、端のもようが角張っていることで区別できます。

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■
8	9	10	11
■		■	■

18. ムツキボシテントウ

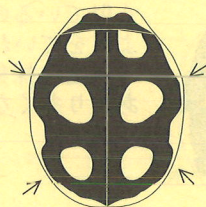
六黄星瓢虫

Oenopia scalaris

(はしごの)

分 布

本州、九州、小笠原、朝鮮半島、台湾、インドシナ



3.3-3.9 mm

ウスキホシテントウ（前種）によく似ていますが、やや濃い黄色であることと、縁のもようが少し異なっています。山地のアカマツ林に生息している種類と考えていましたが、1998年の友の会合宿「淡路島」で訪れた南淡町・吹上浜や大阪湾岸の海岸部でも見つかり、クロマツ林でも生息ができることがわかりました。

■生息環境 アカマツ林などを好む。少ない。

■生態 松につくアブラムシ類を捕食。

■大阪付近での採集記録

[北摂] 豊能町東ときわ台、高代寺山、尼崎・須佐男神社 [大阪湾] 箱作海岸、須磨浦海岸 [金剛山地] 二上山麓畑、金剛山（大阪側）950-1020m [附外] 淡路島吹上浜

■似ている種類と区別点

ウスキホシテントウ（17.）とは黄色の色合いがやや濃いことと、端のもようが丸まっていることで区別できます。

■発生消長（採集記録より）

4	5	6	7
■	■	■ ■	

8	9	10	11
		■ ■	

19. ヒメカメノコテントウ

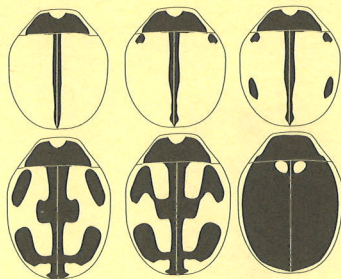
姫亀甲瓢虫

Propylea japonica

(日本の)

分布

北海道、本州、四国、九州、対馬、琉球、千島、樺太、シベリア、朝鮮半島、中国、台湾、インドシナ、インド



3.0-4.6 mm

やや小型のテントウムシでは最もふつうに見られる種類のひとつで、産地は本書で扱った39種のなかで最も多くなっています。

模様にもいくつかパターンがあり、セズジ型はムナグロチャイロテントウ(27.)ときわめてよく似ています。湿地で採集した場合には注意が必要です。

黒化型(図の右下)は比較的めずらしい斑紋パターンようです。博物館に標本がなかったので、Nature Study1997年7月号の表紙では紹介しませんでした。その後各地からの黒化型標本を寄贈していただきました。

■生息環境 都市部、平地、山ぞい、山地、河川敷にふつう。

■生態

■大阪付近での採集記録

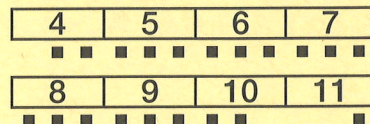
[北摂] 能勢町(杉原)、箕面、豊能町(初谷、青貝山付近)、猪名川町(槻並、内馬場、民田)、川西市(笹部、大和、西畦野、芋生、一庫)、篠山町(上麓坊)、剣尾山、摂津峡、天王山、高槻土室、甲子園、豊中石蓮寺 [大阪市内] 矢倉海岸、鞠公園、浪速区、長居公園、平野区平野、生玉、茶臼山、夕陽丘、長柄橋 [泉州] 仁徳天皇陵、高石市高砂、貝塚市(三ツ松、森)、箱作、波有手、磯ノ浦、岬町西川下流、箱作海岸、多奈川、三国、信太山、大泉緑地 [河内] 河内長野市・寺ヶ池公園、河合寺、八尾市八坂、枚方市岡東 [生駒山地] 枚岡、鳴川峠道、信貴山、尊延寺 [金剛山地] 二上山 [和泉山脈] 天見から岩湧山、蕎原、牛滝、貝塚市大川・馬場 [六甲山地] 六甲、西宮市(船坂谷、金仙寺) [淀川・琵琶湖] 守口市八雲、高槻市鶴殿、高槻上牧、新淀川大橋、三川合流点、枚方磯島

■似ている種類と区別点

亀甲模様ものは大阪府に記録のないコカメノコテントウ以外には似ている種類はありません。

セズジ型はムナグロチャイロテントウ(27.)ときわめてよく似ています。明瞭な区別点は後腿節が真っ黒にならないことぐらいでしょう。(絵ときけんさくviiを参照)

■発生消長(採集記録より)



20. シロトホシテントウ

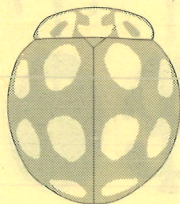
白十星瓢虫

Calvia decemguttata

(10星の)

分 布

北海道、本州、四国、九州、シベリア、中国、ヒマラヤ、欧州



4.5-6.0 mm

シロホシテントウ系ではもっとも大きな斑紋をもつテントウムシで、見分け方は容易いでしょう。山地に行くと比較的よく見られます。

■生息環境 山ぞいから山地。

■生態

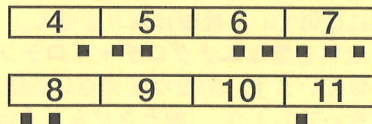
■大阪付近での採集記録

[北摂] 箕面、豊能町 (高代寺道、初谷)、猪名川町西軽井沢、川西市 (笹部)、妙見山頂、摂津峡、高槻市樫田、高槻市神峰山寺ふきん [金剛山地] 二上山麓畑、御所側 alt.1100M [附外] 護摩檀山、比良山、高野山、京都岩倉

■似ている種類と区別点

茶色に白い星のある種類のなかでは、斑紋が大きく、10個であることから、比較的区別しやすいと思われます。

■発生消長 (採集記録より)



21. シロジュウシホシテントウ

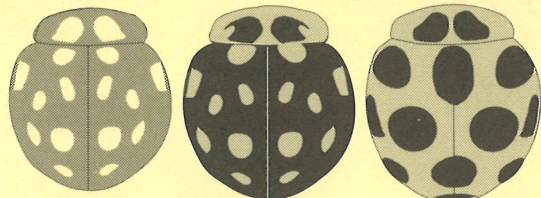
白十四星瓢虫

Calvia

(14星の)

分布

北海道、本州、四国、九州、対馬、
千島、樺太、シベリア、朝鮮半島、
中国、台湾、欧州、北米



基本型

暗色型

紅型

4.4-6.0 mm

この種類には3
パターンあり、別
種ではないかと思
われるほどです。

天見や紀見峠で
はクワの上でハラ
グロオオテントウ
とともに見つかる
ことがあったよう
です。何らかの関
係があるのかもし
れません。

■生息環境 山ぞいおよび山地。

■生態

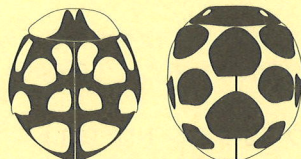
■大阪付近での採集記録

[北摂] 猪名川町 (槻並)、豊中・島熊山、摂津峡 [泉州] 高石市高砂 [金剛山地] 葛城山自然探求路 [和泉山脈] 牛滝、天見、紀見峠 [府外] 滋賀今津平池

■似ている種類と区別点

暗色型はナミテントウ (まだら型28.) と似ていますが、星の形と地色で区別できます。

紅型は10個の大きな星のあるトホシテントウ (39.) と似ていますが、色彩や強い光沢があることで簡単に区別できます。



28. ナミテントウ (まだら型) 39. トホシテントウ

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
---	---	---	---

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

8	9	10	11
---	---	----	----

■ ■

22. ムーアシロホシテントウ

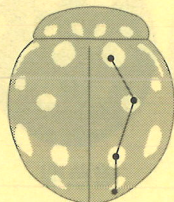
ムーア白星瓢虫（ムーアは人名）

Calvia muiri

（ムーア氏の）

分布

北海道、本州、四国、九州、対馬、
琉球（奄）、台湾、中国



4.0-5.1 mm

褐色に白のもようのある白星のテントウムシでは最もふつうに見られ、大阪市内の都市公園などにも生息しています。丘陵地の竹林などにはほとんど必ず生息していて、ササをネットですくうとたくさんの個体を得ることができます。

シロジュウゴホシテントウやシロホシテントウなどがとりわけよく似ています。絵とき検索をよく見て区別してください。

この種類の斑紋には褐色の部分の鮮やかなものと薄いものの少なくとも2タイプがあるようです。

■**生息環境** 平地から山ぞい・山地。わりとふつう。

■**生態** 朽木、樹皮下や木の実のなかで成虫越冬。ササ類やエノキでよく見られる。

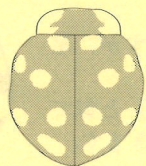
大阪付近での採集記録

[北摂] 箕面、阪急山本、川西市（芽生）、豊能町東ときわ台、能勢町（下田尻）、豊中市島熊山、宝塚市たきがひら、高代寺山、茨木弁天山、摂津峡 [大阪市内] 鞆公園、千島公園、南港東、長居公園 [泉州] 浜寺公園、大泉緑地、高石市高砂 [河内] 滝谷駅付近、箱作海岸、富田林市高橋・石川、河合寺 [生駒] 枚方・山田池公園、八幡市男山、鳴川峠道 [金剛山地] クロトガ谷 [和泉山脈] 天見島の谷、天見、牛滝、和泉葛城山頂、紀見峠、貝塚市大川・馬場 [淀川・琵琶湖] 八幡市三川合流 [府外] 春日山

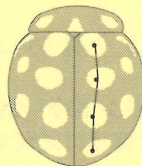
似ている種類と区別点

比較よく見られるシロホシテントウ（34.）とはやや大きいことと、前胸背板に白いもようが4つ並んでいることで区別できます。

斑紋の数がまったく同じのシロジュウゴホシテントウ（23.）とは、内側の紋列が明らかに曲がっている点で区別できます。



34.シロホシテントウ



23.シロジュウゴホシテントウ

発生消長（採集記録より）

4	5	6	7
■	■	■	■

8	9	10	11
■	■	■	■

23. シロジュウゴホシテントウ

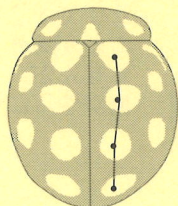
白十五星瓢虫

Calvia quindecimguttata

(15星の)

分布

北海道、本州、四国、千島、シベリア、樺太、中国、インド、中央アジア、コーカサス、欧州



4.9-5.2 mm

ムーアシロホシテントウと同じ斑紋パターンですが、並び方が異なっています。

大阪近辺で知られていた産地から当初は山地性のものかと考えていましたが、1994年に開かれた特別展「琵琶湖」の調査のときに、ヨシなどの生えた琵琶湖の湖岸からいくつか見つかっています。この種類の生態をひもとく手がかりがあるかもしれません。また、大阪でも高槻市鶴殿など、淀川沿いのヨシ原に産地があるかもしれません。

■生息環境 山地性。少ない。

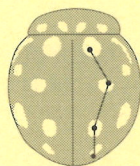
■生態

■大阪付近での採集記録

[北摂] 豊能町 (高代寺道) [淀川・琵琶湖] 大津市真野、新旭 [府外] 京都市花背峠

■似ている種類と区別点

ムーアシロホシテントウ (22.) とは内側の斑紋配列がまったく違って点で区別できます。星の大きさもやや大きくなっているようです。



22.ムーアシロホシテントウ

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
		■	■
8	9	10	11

24. ジュウロクホシテントウ

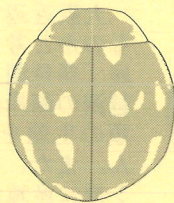
十六星瓢虫

Sospita oblongoguttata

(星が細長い)

分 布

本州、九州、朝鮮半島



7.0-8.5 mm

やや大型で濃い褐色のテントウムシです。滋賀県マキノ町の黒河林道に生えたアカマツの高い梢を長サオですくっていたら、交尾中の個体が網に入ったことがあります。これまでの産地はあまり多くありませんが、アカマツ林を徹底的に調べることで、産地がさらに見つかるかもしれません。

■生息環境 山地性で松を好む。少ない。灯火に来る。

■生態

■大阪付近での採集記録

[北摂] 川西市 (妙見山頂、大和)、豊中・島熊山 [六甲] 六甲山ロープウェー [附外] 京都岩倉、滋賀マキノ黒河林道

■似ている種類と区別点

茶色に白い星のあるテントウムシの中では、地色が濃い茶色であることと、星が細長くなっている点で明らかに区別できます。

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
	■ ■	■ ■ ■	
8	9	10	11

25. ウンモンテントウ

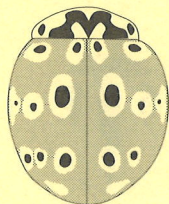
雲紋瓢虫

Anatis halonis

(輪状紋のある)

分布

北海道、本州、四国、九州、千島



6.7-7.7 mm

分布や産地から見て、ブナ帯のテントウムシといえます。白い輪状紋が特徴ですが、ときにはこれを欠いている場合もあるそうで、その場合、ナミテントウの紅型との識別が難しくなります。

■生息環境 山地性。少ない。

■生態

■大阪付近での採集記録

[北摂] 川西市・妙見山頂、豊能町・高代寺道、豊能町初谷 [府外] 奈良春日山、高野山サクラ峠、和佐又山

■似ている種類と区別点

白の紋の中に黒のもよう(輪状紋)をもつものは他にはなく、明瞭に区別できます。

輪状紋を欠くタイプ(まれに見られるという)とナミテントウ(紅型:28.)とは模様をひとつひとつ丁寧に見比べるしかないように思われます。

■発生消長(採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■
8	9	10	11
■			

26. クロスジチャイロテントウ

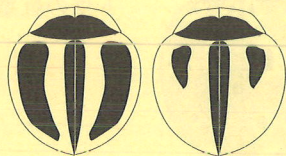
黒筋茶色瓢虫

Micraspis kiotoensis

(京都の)

分 布

本州、九州



3.5-3.7 mm

図鑑には「まれ」と記されているテントウムシですが、近畿では琵琶湖畔や淀川など、各地に産地が知られています。翅の黒いスジには長短があります。

■生息環境 ヨシ原、湿地。少ない。

■生態 モモコフキアブラムシ (ススキ、モモ) を食べる。

■大阪付近での採集記録

[淀川・琵琶湖] 大阪市旭区、守口市八雲、高槻市鶴殿、琵琶湖松ノ木内湖、枚方市、三川合流点 [生駒] 枚方尊延寺 [府外] 京都、西宮、滋賀今津平池、奈良市平城宮跡

■似ている種類と区別点

3本のスジがあることで、ミスジキイロテントウ (6.) と一見にているかもしれませんが、形や大きさから間違えることはないでしょう。



6. ミスジキイロテントウ

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
---	---	---	---

■ ■ ■

8	9	10	11
---	---	----	----

■ ■

27. ムナグロチャイロテントウ

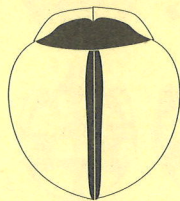
胸黒茶色瓢虫

Micraspis satoi

(佐藤氏の)

分布

本州



3.4-3.6 mm

クロスジチャイロテントウ（前種）にきわめて近い種類ですが、左右の翅の中央に黒いスジがありません。

ヒメカメノコテントウのセスジ型にもきわめてよく似ていますが、後脚腿節が黒いことで区別できます。

大阪府未発見ですが、前種との関わりもあり、要注目です。

■生息環境 ヨシ原、湿地にまれ。

■生態

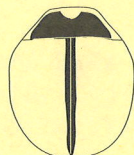
■大阪付近での採集記録

[淀川・琵琶湖] 琵琶湖早崎内湖、湖北町琵琶湖畔、滋賀県今津町浜分沼 [附外] 敦賀市池河内

■似ている種類と区別点

ヒメカメノコテントウ（19.）のセスジ型ときわめてよく似ています。後腿節が真っ黒である点が明瞭な区別点です（絵ときけんさくviiページをごらん下さい）。

大阪府からの記録はありません。



19. ヒメカメノコテントウ
(セスジ型)

■発生消長（採集記録より）

4	5	6	7
---	---	---	---

8	9	10	11
---	---	----	----

28. ナミテントウ

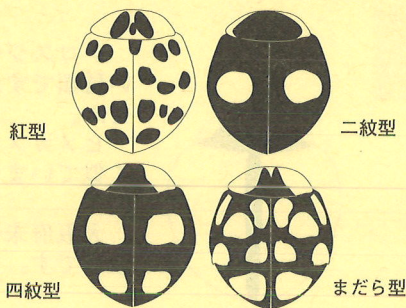
並瓢虫

Harmonia axyridis

(学名の意味不明)

分布

北海道、本州、四国、九州、対馬、シベリア、樺太、朝鮮半島、中国



4.7-8.2 mm

ナナホシテントウなどとならんで、最もおなじみのテントウムシです。図鑑によっては「テントウムシ」という名前で載っている場合もあります。実に100通り以上のもようが知られており（表紙および裏表紙）、大きくわけると「二紋型」「四紋型」「まだら型」「紅型」の4タイプに分けられます。大阪付近では二紋型の割合が最も多いのですが、北に行くほどその割合が減り、北海道では紅型が最も多くなります。

時には4タイプのうちの中間的なものや、どれにも属さないタイプも見られることがあります。

■生息環境 都市部、平地、山ぞい、河川敷、山地にふつう。

■生態 アブラムシ食。

■大阪付近での採集記録

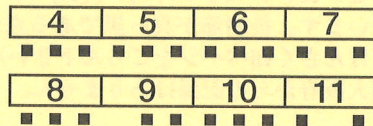
[北摂] 能勢町 (天王、下田尻)、豊能町 (初谷、青貝山付近、高代寺道、妙見口駅前、東ときわ台、保谷)、猪名川町 (上阿古谷、猪淵、槻並中、杉生新田、内馬場)、豊中市島熊山、川西市 (笹部、見野、大和、西畦野)、篠山町 (上籠坊)、宝塚市猿山、高槻市樫田、下止々呂美、摂津峡 [大阪市内] 韮公園、長居公園、鶴見緑地 [泉州] 三国、浜寺、仁徳天皇陵、大泉緑地、高石市高砂、箱作 [河内] 錦織公園、河内長野市寺ヶ池公園、長野公園 [金剛山地] 二上山麓畑、伏見峠 [和泉山脉] 和泉葛城山頂、天見 [六甲山地] 有馬 [淀川・琵琶湖] 高槻市鶴殿、三川合流点、滋賀県新旭町

■似ている種類と区別点

本種の二紋型はヒメアカホシテントウ (5.) と一見よく似ていますが、前胸背板に部分的に白いようがあることと大きさで区別できます。ダンダラテントウ (30.) とよく間違えます。注意しながら模様をひとつひとつ見比べる必要があります。まだら型はシロジュウシホシテントウ (暗色型: 21.) とよく似ていますが、地色が黒 (シロジュウシホシは濃い茶色) であることと星の配列で区別できます。

クリサキテントウ (29.) との区別点は次のページをごらんください。

■発生消長 (採集記録より)



29. クリサキテントウ

栗崎瓢虫（栗崎は人名）

Harmonia yedoensis

（江戸の）

分 布

本州、四国、九州、対馬、琉球、台湾、朝鮮半島、中国

4.8-8.0 mm

非常に多くに斑紋多型をもち、しかもナミテントウとたいへん類似しているという、分類上たいへんやっかいな種類です。マツ類に特異的につくようですが、ナミテントウもマツの植物体上にいることはあるので、マツで採集されたからといってこの種類とは断定できません。

■生息環境 マツ林に局所的に見られる。

■生態 アブラムシ食。

大阪付近での採集記録

[北摂] 剣尾山、豊能町高代寺道 [大阪市内] 鶴見 [生駒] 二上山麓畑 [附外] 奈良・富雄・近大構内

似ている種類と区別点

成虫はナミテントウ（28.）に比べ、翅の先端がやや尖っていることで異なっていますが、区別はきわめて困難です。

一方、終齢幼虫ではクリサキが腹部の7節の両側に黄色い帯びがあり、ナミが5節にとげ状突起を伴ったオレンジの模様があることで、容易に区別ができます。

発生消長（採集記録より）

4	5	6	7
	■	■	
8	9	10	11

30. ダンダラテントウ

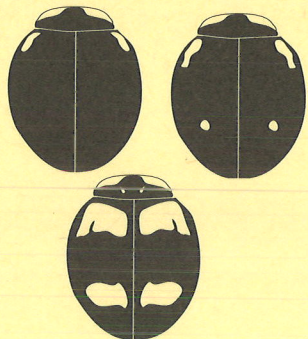
段だら瓢虫

Menochilus sexmaculatus

(6星の)

分布

本州、四国、九州、対馬、琉球、台湾、中国、東南アジア、インド、アフガニスタン、ニューギニア、ポリネシア、ミクロネシア



3.7-6.7 mm

この種類もいろいろなようが現れることが知られていますが、北のほうが黒い部分が多いタイプが分布し、逆に沖縄、台湾など南のほうに行くと赤い部分の多いタイプがばかりが見られます。これはナミテントウとは逆のパターンですが、ダンダラテントウは日本の本州が分布のもっとも北に位置しているため、大阪あたりではどちらの種類も黒っぽいタイプが多く見られることになります。よって、しばしばナミテントウと間違っていますが、慣れれば区別できるようになるでしょう。

保育社の図鑑では2紋型が掲載されていないため、しばしば質問を受けます。ごくまれに赤い部分を全く欠く、翅全体が真っ黒の個体も見られます。

■**生息環境** おもに平地にみられる。

■**生態** アブラムシを捕食。

大阪付近での採集記録

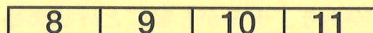
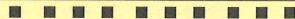
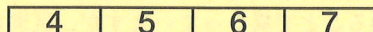
[北摂] 箕面公園、豊能町東ときわ台、豊中市高熊山摂津峡 [摂津] 豊中市服部、千里山、茨木市安威川、高槻市土室 [大阪市内] 中之島阪大、長居公園、南港、靉公園、天王寺公園、生玉公園、城北、長柄橋 [泉州] ニサンザイ古墳、浜寺、高石市高砂、信太山、貝塚市森、岬町西川下流、高師浜、八幡市駅前、岸和田市別所、岬町多奈川、岬町孝子、阪南市箱作 [生駒] 枚岡神社、府民の森 [河内] 枚方・山田池、長野駅前・石川 [淀川・琵琶湖] 高槻市鶴殿、新淀川大橋、三川合流点、枚方市磯島 [附外] 神戸大学構内、神戸住吉川、香芝市・志都美駅

似ている種類と区別点

ナミテントウ (28.) とよく間違えられますが、へりがやや出っ張っていることと模様をひとつひとついねいに見比べることで区別できます。

マクガタテントウ (16.) ともやや似ているかもしれませんが。

発生消長 (採集記録より)



31. ハラグロオオテントウ

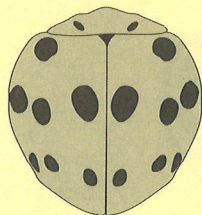
腹黒大瓢虫

Callicaria superba

(立派な)

分布

本州、四国、九州、台湾、中国、チベット、ヒマラヤ、インド



11.0-12.0 mm

大阪ではカメノコテントウとならんで、もっとも大型のテントウムシです。初夏に山ぞいのクワをさがすと見つかることがあります。クワキジラミの白いワックスがたくさんついている木をさがすのがコツです。

■生息環境 山ぞいおよび山地。少ない。

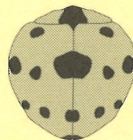
■生態 クワにつくクワキジラミを食べる。

大阪付近での採集記録

[北摂] 川西市(笹部)、猪名川町(槻並)、能勢町(宿野) [和泉山脈] 紀見峠、河内長野市天見 [附外] 三田市大磯、三重赤目、吉野新子、和歌山貴志川町井の口

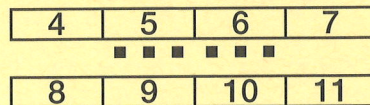
似ている種類と区別点

大阪府に分布しないオオテントウと似ていますが、前胸背板にもようが2つあることで区別できます。



オオテントウ

発生消長 (採集記録より)



32. カメノコテントウ

亀甲瓢虫

Aiolocaria hexaspilota

(6つのマダラ模様)

分布

北海道、本州、四国、九州、台湾、
中国南部、ヒマラヤ、インド



8.0- mm

ハラグロオオテントウとならんで最大級のテントウムシです。ハムシ類の幼虫を捕食しているの、それらの寄主植物をさがすのが観察のためのコツです。

1997年8月に友の会合宿で滋賀県マキノ町の赤坂山に登ったとき、カメノコテントウが次々に飛来するという現象がみられました。また、他の方たちからも真夏の伊吹山の山頂でたくさん見たという話もうかがいました。夏に避暑あるいは大移動をするという性質があるのかもしれませんが。

そのほか、越冬のようすを観察するのもよいでしょう。ナミテントウやキイロテントウと同じように、大きな樹のうろや看板の裏などにひそんで越冬します。

■**生息環境** 山間部や河川敷。少なくなった。

■**生態** ヤナギハムシ・ヤナギルリハムシ(ヤナギ)、クルミハムシ(サワグルミ)の幼虫を捕食。5月末に産卵、8から9月に羽化。

■大阪付近での採集記録

[北摂] 川西市(舎羅林山、見野、笹部)、箕面、豊能町(妙見口、初谷、青貝山付近)、篠山町(上箸坊)、猪名川町(槻並中、三草山)、西宮市盤滝、剣尾山 [泉州] 堺市浅香大和川 [生駒] 辻子谷 [金剛山地] 久留野峠から伏見峠 [淀川・琵琶湖] 三川合流点 [府外] 京都市精華町木津川河川敷、京都貴船、高野山大門、高野山不動坂、伊吹山、マキノ赤坂山

■似ている種類と区別点

似ている種類はありません。

■発生消長(採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■
8	9	10	11
■	■	■	■

33. キイロテントウ

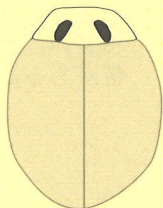
黄色瓢虫

Illeis koebelei

(ケベレ氏の)

分布

本州、四国、九州、対馬、琉球、台湾、朝鮮半島



3.5-5.1 mm

レモン色の翅とまっ白な前胸背板が特徴のテントウムシで、各地に普通にみられます。

食菌性の種類のひとつで、季節を問わず見ることができます。

■生息環境 平地から山ぞいまで。ふつう。

■生態 エノキなどの白渋病菌類を食べる。

大阪付近での採集記録

[北摂] 川西市 (妙見山上、大和、笹部、高代寺道、芋生)、箕面市オケ原池、豊能町 (初谷、東ときわ台、青貝山付近)、猪名川町 (民田)、池田市五月山、豊中市島熊山、剣尾山、茨木弁天山、摂津峡 [大阪市内] 靱公園、長居公園 [泉州] 大泉緑地、高石市高砂 [河内] 枚方山田池、富田林・錦織公園、長野公園 [生駒] 枚岡 [金剛山地] 二上山麓畑、金剛 (クロトガ谷・ツツジオ谷)、千早、金剛山御所側alt.1100m、大和葛城山登山口 [和泉山脈] 牛滝、泉佐野滝の池 [六甲山地] 西宮市 (甲山大橋、船坂谷、金仙寺) [淀川・琵琶湖] 三川合流点、枚方磯島

似ている種類と区別点

翅が無地のナミテントウ (無紋型: 28.) やアカイロテントウ (9.) と似ていますが、生きている個体はレモン色の翅と白い前胸背板で明瞭に区別できます。標本では色がかわってしまうので迷う場合がありますが、前胸背板の黒いもようで見分けることができます。

発生消長 (採集記録より)



34. シロホシテントウ

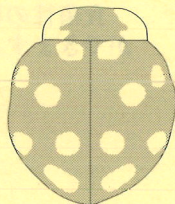
白星瓢虫

Vibidia duodecimguttata

(12星の)

分布

北海道、本州、四国、九州、シベリア、朝鮮半島、中国、コーカサス、小アジア、欧州



3.1-4.9 mm

シロホシテントウ系のなかではムーアシロホシテントウに次いでふつうに見られる種類です。斑紋のもようもたいへんよく似ていますが、大きさがやや小さいことと、前胸背板が中央にひとつだけ褐色の帯があることが同定の決め手です。

■生息環境 山地性。

■生態 低木などの白濁病菌類を食べる。

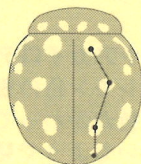
■大阪付近での採集記録

[比撰] 豊能町(高代寺道、初谷、笹部、大谷)、川西市(大和、横地)箕面高山道、高槻天王山、摂津峡、高槻市萩谷 [金剛山地] 金剛山各地 [和泉山脈] 牛滝、天見島ノ谷 [府外] 比良山

■似ている種類と区別点

ムーアシロホシテントウ(22.)とは前胸背板の中央に褐色の斑紋があることで区別できます。

茶色に白い模様のテントウムシのなかではやや小型です。



22.ムーアシロホシテントウ

■発生消長(採集記録より)

4	5	6	7
■	■	■	■
8	9	10	11
			■

35. クモガタテントウ

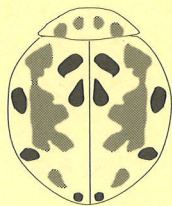
雲形瓢虫

Psyllobora vigintimaculata

(18星の)

分布

本州、北米



1.75-3.0 mm

北米原産の小型のテントウムシで、1984年に東京港付近で最初に見つかった帰化種です。現在では関西でも平地でふつうにみられる種類になっています。エノキ、セイタカアワダチソウなどのほか、フヨウでたくさん発生しているのが観察できます(山内周輔氏による)。ウドンコ病菌を食べる食菌性のテントウムシのひとつです。

■**生息環境** 都市部、平地。北米原産の帰化種。

■**生態** 白渋病やすず病をおこさせる子のう菌を食べている。エノキ、セイタカアワダチソウ、フヨウなど。成虫越冬する。

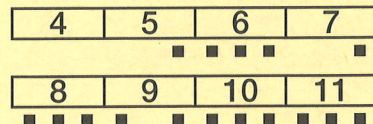
■大阪付近での採集記録

[摂津] 服部緑地、千里中央公園、豊中市原田西、豊中市島熊山、高槻市(西大樋、津之江、唐崎、女瀬川、芥川、土室川)、茨木市安威川、西宮市・御前浜 [大阪市内] 鞠公園、長居公園、千島公園、大正区警察前、西中島、平野区(平野、加美、長吉)、生野区巽南 [河内] 柏原市高井田、八尾市大和路線沿い [泉州] 大泉緑地、泉大津市助松埠頭、泉大津市下条町

■似ている種類と区別点

似ている種類はありません。

■発生消長(採集記録より)



36. ニジュウヤホシテントウ

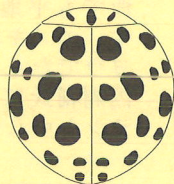
二十八星瓢虫

Epilachna vigintioctopunctata

(28星の)

分布

本州、四国、九州、琉球、台湾、中国、インドシナ、インド、ニューギニア、豪州



5.3-6.8 mm

ナスやジャガイモの畑で葉っぱを食い荒らすテントウムシで、いわゆる「益虫」のイメージからすればまったく逆の仲間です。書物によっては「テントウダマシ」の異名ももっていますが、図鑑類で載っているところの「テントウダマシ」とは別物です。

大阪では都心部を含む平地から山沿いに分布していて、山地性の次種、オオニジュウヤホシテントウと棲み分けています。

■生息環境 平地から山ぞい。

■生態 成虫、幼虫ともナス科（イヌホオズキ、ジャガイモ、ナス、クコ、チョウセンアサガオ）の葉を食べる。

■大阪付近での採集記録

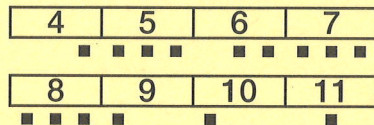
[北摂] 一の鳥居、箕面、川西市大和、川西市笹部、猪名川町内馬場 [大阪市内] 鞆公園、夕陽丘、長居公園、美章園 [泉州] 高師浜、浜寺、箱作海岸、岬町上孝子、多奈川 [河内] 松原市田井城 [生駒] 暗峠、枚岡公園、平群町榛原～鳴川 [金剛山地] 二上山 [和泉山脈] 天見 [六甲山地] 甲東園 [府外] 奈良公園、八幡市駅付近

■似ている種類と区別点

次のオオニジュウヤホシテントウ (37.) とは翅の中の黒い星の割合が比較的少ないことで区別できます。

確実な区別点は小楯板が黒っぽくならないことですが（絵ときけんさくページ参照）、これで100%識別できるわけではないようです。

■発生消長（採集記録より）



37. オオニジュウヤホシテントウ

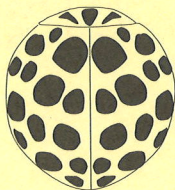
大二十八星瓢虫

Epilachna vigintioctomaculata

(28星の)

分 布

北海道、本州、四国、九州、千島、
樺太、シベリア東部、朝鮮半島、中
国



6.6-8.2 mm

前種ニジュウヤホシテントウとたいへんよく似ていますが、全体的に斑紋部分が多くて黒っぽいことと、小楯板が黒いことが区別の決め手ですが、100%これで区別できるわけないようです。

前種と同じような植物につきますが、大阪では山沿いから山地にかけて見られます。ただ、両方の種類が分布している箇所も少なからずあり、また同じ場所でも年によってその割合が変化していることもあるようです。

その一例として、河内長野市天見では1997年6月に訪れた時は本種がほとんどでしたが、1998年7月では前種(ニジュウヤホシテントウ)ばかりでした。

■生息環境 山ぞいから山地。

■生態 ジャガイモ、ナス、ミヤマニガウリ、オオマルバノホロシ、クコ、
チョウセンアサガオなどの葉を食べる。

■大阪付近での採集記録

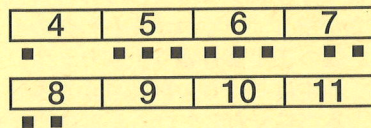
[北摂] 池田、猪名川町槻並、猪名川町西軽井沢、箕面、高槻市二料、摂津峡 [金剛山地] 小深~千早トンネル、千早、金剛山 (クロトガ谷・屏風坂)、大和葛城山・登山口 [和泉山脈] 岩湧、天見、紀見峠 [府外] 兵庫県関宮町大久保、奈良県洞川、京都貴船

■似ている種類と区別点

前のニジュウヤホシテントウ(36.)とは全体的に黒く、時に翅の後半が盛り上がっていることで区別できます。

ほとんどの個体では小楯板が黒っぽい色になっています。

■発生消長 (採集記録より)



38. ヤマトアザミテントウ

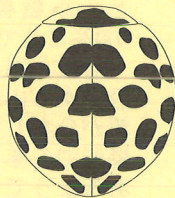
大和薊瓢虫

Epilachna niponica

(日本の)

分 布

北海道、本州



5.5-8.5 mm

アザミ類につくテントウムシで、近畿では北部の山沿いや山地で見られます。大阪府でも北摂や金剛山などの高山で分布している可能性はあると思われませんが、現在までに確認できていません

■**生息環境** 近畿では北部の山ぞいから山地。

■**生態** アザミ類。ときにジャガイモの葉を食べる。

■大阪付近での採集記録

[北摂]箕面? [府外] 芦生、芹生、比良山、伊吹山

■似ている種類と区別点

前のオオニジュウヤホシテントウ (37.) よりもさらに黒っぽさが増し、いくつか左右の翅のようが完全に融合しています。翅の後半部も盛り上がります。自然史博物館にある箕面産の1標本はこれらの区別点から本種に同定することができますが、本当に分布しているか再確認が必要です。

■発生消長 (採集記録より)

4	5	6	7
---	---	---	---

■ ■ ■

8	9	10	11
---	---	----	----

■

39. トホシテントウ

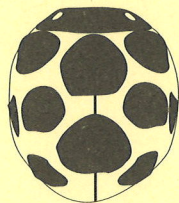
十星瓢虫

Epilachna admirabilis

(すばらしい)

分 布

北海道、本州、四国、九州、台湾、
中国、ビルマ



5.4-7.5 mm

サッカーボールのようで、なかなかかわいらしいテントウムシです。生息環境は食性から山ぞいから山地が多いようですが、琵琶湖畔では食草のハンノキがたくさん生えているためか、平地でもたくさん見られます。

■生息環境 山ぞいから山地？

■生態 カラスウリ、ヤマハンノキ、ハンノキ、クマシデ、アマチャヅルの葉を食べる。落ち葉の下などで幼虫で越冬し土の中で蛹化。年2回発生する。

大阪付近での採集記録

[北摂] 池田、箕面公園、箕面市西山口、初谷、吉川、青貝山、笹部、高代寺道、豊能町寺田 [生駒] 平群町榎原～鳴川、八尾市 [金剛山地] 二上山麓畑、金剛山(クロトガ谷・モガ辻～久留野峠) [和泉山脈] 河内長野市延命寺、天見 [府外] 京都市西京区小塩、兵庫県関宮大久保、高野山大門、琵琶湖新旭

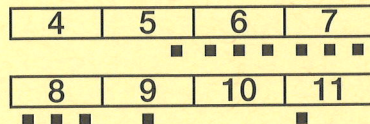
似ている種類と区別点

シロジュウシホシテントウ(紅型:21.)とは斑紋が大きいことと地色で区別ができます。



21.シロジュウシホシテントウ
(紅型)

■発生消長(採集記録より)



参考にしたおもな文献

Sasaji, H. 1971. Fauna Japonica. Coccinellidae. Academic Press of Japan.

佐々治寛之 (1985)。テントウムシ科。原色日本甲虫図鑑III巻。保育社。

佐々治寛之 (1998)。テントウムシの自然史。東京大学出版会。

日浦勇 (1978)。テントウムシ。大阪の昆虫、陸生篇I。大阪市立自然史博物館。

仲田元亮 (1982)。能勢の昆虫、甲虫の部、下巻。

桂孝次郎・奥野晴三・山本博子 (1993)。韮公園の自然。自費出版。

的場績 (1988)。アイヌテントウ県下に産す。KINOKUNI (33) : 25。

谷壽一・谷智子 (1998)。アミダテントウ成虫の生態に関する観察。Nature Study43 (10) :7-8。

東浩司 (1997)。島熊山の甲虫相 (大阪府豊中市の元ヘリポート建設予定地の甲虫調査)。関西甲虫談話会資料 (12)。

ミニガイド No. 16

「大阪のテントウムシ」

A Guide to Ladybirds of Osaka

大阪地区的瓢虫

著者：初宿 成彦 (昆虫研究室) Shigehiko Shiyake

1999年3月31日 初版発行

発行：大阪市立自然史博物館 Osaka Museum of Natural History

©大阪市立自然史博物館, 1999

Osaka Museum of Natural History, 1999



すべて「ナミテントウ」という
たった1種類のテントウムシで
Harmonia axyridis (PALLAS)



すべて「ナミテントウ」という
たった1種類のテントウムシで
Harmonia axyridis (PALLAS)